

医療新世紀2010 クローズアップ整形外科

患者第二で行う 人工膝関節置換術

医療法人康仁会 西の京病院
副院長兼整形外科・リハビリテーション科部長
植田 康夫 先生

医療法人康仁会 西の京病院では2009年の1年間で305件の人工関節手術を行い、このうち人工膝関節置換術は254件と8割以上を占めている。手術ではMIS（最小侵襲手術）を目指し、コンピューター作図を活用した的確な手術を心がける。患者にとって負担の少ない術式であるため、入院期間も1〜3週間で済み、早期の社会復帰を実現している。

「患者の痛みを取り除き、一生涯歩いてもらう」 負担の少ないMISで早期社会復帰を目指す

整形外科、リウマチ、 救急科の各専門医が対応

西の京病院の整形外科は、常勤6人・非常勤3人の体制で、水曜の手術日を除き、2診〜4

診体制で診療に臨んでいる。整形外科専門医6人、リウマチ専門医3人、救急科専門医2人を有し、取り扱う主な疾患は、腰痛、関節痛、動脈硬化症、リウマチ、透析に伴う合併症などである。



植田 康夫 先生

うえだ・やすお 1959年、奈良生まれ。84年、奈良県立医科大学卒業。医学博士。県立奈良病院整形外科、松阪中央総合病院整形外科医長、国保連合中央病院整形外科医長を経て、97年に西の京病院整形外科医長。2006年、副院長兼整形外科・リハビリテーション科部長。麻酔標榜医、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本リウマチ学会認定リウマチ専門医、日本救急医学会認定救急科専門医、日本脊椎脊髄病学会指導医

整形外科の手術は、人工関節手術をはじめ、各外傷疾患手術、脊椎手術、四肢血管手術などを行っている。

患者に負担の少ない MIS（最小侵襲手術）

西の京病院では、最新の医療技術および設備を導入し、患者に負担の少ない手術を目指している。手術で積極的に取り入れているのがMIS（最小侵襲手術）だ。

「MISでは、できるなら皮切はできるだけ小さくするよう心がけています。たとえば人工膝関節置換術の場合、通常は



「膝の骨の上にある軟骨が摩り減って、骨と骨があたるのが変形性膝関節症です」。コンピューター画面を活用しながら、患者と家族に丁寧に説明する



人工膝関節置換術の皮切は8cm程度

15cm程度ですが、当院では約8cmです。膝を支える筋肉である大腿四頭筋にメスを入れることなく、周囲筋肉を温存します。患者さん自身の組織を残してあげることができれば、術後疼痛の軽減はもちろん早期社会復帰が可能になります」と同院副院長兼整形外科・リハビリ

テーション科部長の植田康夫先生は話す。

人工関節手術は305件 膝関節が8割以上占める

MISの場合、患者に低侵襲のため入院期間も1〜3週間程度と、従来の半程度で済む。また、同日同時両側手術が容易

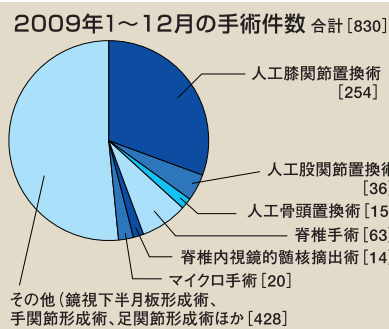
になったことで、片側ずつの手術に比べて入院期間がより短くなっている。これにより、仕事への支障や日常生活の復帰を心配し、人工膝関節・人工股関節置換術を躊躇していた人も前向きに検討してもらえるようになったという。

同院における人工関節手術は、2009年の1年間で305件。その内訳は、人工膝関節置換術が254件と8割以上を占め、人工股関節置換術36件、人工骨頭置換術15件となっている。

手術にあたっては、コンピューターに取り込んだ画像をもとに、術式の作図を行う。骨を切るラインや角度、切除する骨の量などの設計図を作るわけだ。「足全体の画像から荷重軸を割り出して、人工関節デジタルテンプレートを使ってコンピューター上で作図していきます。これまでのような目測ではなく、部位の構造をしっかり把握した正確な手術ができるようになりました」と植田先生はいう。

クリーン度の高い 手術室を新設

西の京病院では、2つの手術



医療法人 康仁会 西の京病院

〒630-8041 奈良県奈良市六条町102-1
TEL.0742-35-1121 FAX.0742-35-1160
http://www.nishinokyo.or.jp/

【診療科目】内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、眼科、麻酔科（院長登志）、リウマチ科、形成外科、美容外科、血管外科
【受付時間】月〜土 8:30〜12:00
月・金（夜診）18:00〜19:30



「安心」と「信頼」の医療を目指す西の京病院

と思います。『年をとったから、もうだめだ』と我慢するのではなく、いつまでも現役で、寝たきりになるのではなく、一生涯歩いてもらうというのが一番の願いです」と植田先生はいう。